

【世界史探究】

～ClassPad.net の同時編集機能・リンクふせんを活用する～

絵画の特徴を、歴史的背景を通じて理解・探究する授業

政治上の出来事が社会や経済に与える影響を文化を通じて捉えるとともに、探究の流れを確認する。

【本授業の目的・狙い・到達目標】

教師向けの目標：戦争などの政治上の出来事が、社会や経済に与える影響を理解させる。一度は見えたことがあるような有名絵画と歴史の関わりの奥深さを伝える。

生徒向けの目標：政治上の重要な出来事を正確に理解し、その社会的影響の理解に繋げる。

【ClassPad.net 活用によるメリット】

- ・**生徒の理解促進**：重要語句や内容の閲覧が容易で、思考力を養う時間をより多く確保することができる。
 - ・**生徒の集中力アップ**：動画や画像コンテンツによる紙面以上の情報量をもとに視覚的にイメージを膨らませることで、生徒たちをより集中させることができる。
 - ・**個別最適学習の促進**：各生徒の端末上で、誌面よりも詳しく絵画や史料などを確認、考察できる機会が提供されることで、その後の個別学習への応用が期待される。

授業の流れ

ClassPad net での操作

step1

【本日の授業の目標】

☆有名絵画と歴史の関わりについて考える

- ①オランダの画家であるフェルメールの作品における「ある特徴」を、他の有名絵画と比較して確認する
- ②各グループごとに、その特徴が表された要因を、オランダ独立戦争をもとに読み取る
→教科書P.●~●~●を確認
- 「戦前のオランダの状況」、「原因」、「経過」、「結果」についてまとめたふせんもあわせて活用

概要の説明

有名絵画と歴史の関わりについての探究学習を行うというテーマを提示する。

step2



ヨハネス・フェルメール「真珠の耳飾りの少女」(44.5cm×39cm)

出典: BSテレ東
#02「真珠の耳飾りの少女」(ヤン・フェルメール)
~世界で一番近い名画 | BSテレ東

【フェルメールの絵画に関する考察】

(フェルメールの絵画の特徴とは?) ?

- ・サイズが小さい
- ・空想的でない
- ・写実的な描き方

絵画の確認

ダ・ヴィンチ、ドラクロワ、フェルメールの絵画の画像と、それらの実物を見ている様子を動画で確認し、気づいたこと、疑問に思うことなどを問う。

その際、絵画の技術的な点や専門的な点（筆使いや構図など）ではなく、パッと見た印象や気づきなど、素朴な視点でよいということを伝える。

〈予想される回答〉

- ・絵画の大きさが極端に異なる
- ・モチーフが三者三様 など

ファイルふせんを活用し、絵画を提示する。

また、リンクふせんを活用し、動画を通して絵画の大きさを実感させる。

〈YouTube 動画〉

■ 「#03「最後の晩餐」(レオナルド・ダ・ヴィンチ)～世界で一番近い名画 | BS テレ東」
(<https://www.youtube.com/watch?v=zizIdsSZfp0&t=73s>)

■ 「#05「民衆を導く自由の女神」(ウジェーヌ・ドラクロワ)～世界で一番近い名画 | BS テレ東」
(<https://www.youtube.com/watch?v=VNgGVkKlfUo>)

■ 「#02「真珠の耳飾りの少女」(ヤン・フェルメール)～世界で一番近い名画 | BS テレ東」
(<https://www.youtube.com/watch?v=YA4nNvDiwNo&list=PL2YBFVHoWdibS7QKE0T99Lwy907fZLNQF&index=12>)

step3

【戦争勃発前のオランダ(ネーデル란트)の状況】

- ハブスブルク家の分裂(1556年)
→ ネーデルランはスペイン=ハブスブルク家領(スペイン領)となる
- 毛織物生産や貿易によって栄え、商工業が発達
- カルヴァン派が多く存在

【経過】

- 1568年：オランダ公イエラムを指導者とする反乱開始
- 1569年：北部がオランダヒト同盟を結ぶ
- 1572年：南部が南オランダ連合を結ぶ
- 1574年：北部がオランダ連合を結ぶ
- 1581年：オランダ連合は独立を宣言する
- 1588年：イギリス艦隊がスペインの船隊艦船を撃沈(アントリムの海戦)
- 1602年：オランダ連合は会員国創設→スペインによる封鎖政策への対処
- 1609年：休戦条約締結→事実上オランダが独立
- 1621年：オランダがスペインと戦争
- 南北アメリカ大陸、アフリカとの交易開始
- 1648年：ウエスト・アフリカの封緘
- オランダの独立が国際的に承認される

当該時期の歴史を確認

ほぼ全員が疑問に思うであろう「絵画の大きさの違い」に着目して、フェルメールの絵画が小さい理由について情報収集してもらうことを伝える。

その前段階として、フェルメールにゆかりのあるオランダについて書かれた、教科書 P.209 L.2~19 (東京書籍の場合のページ) を生徒に読ませ、要点をクラス全体で共有する。

また、次に行うグループワーク用にグループ分けをし、代表者も決定する。

テキストふせんなどを通じて、教科書本文の要点やポイントをまとめた内容を画面で共有し、考察するうえで重要となり得る部分を手書き機能などを活用して明示する。

また、ここまでに示した各種ふせんがそろったデジタルノートを、各グループの代表者に配布する。

step4

【グループワーク】

Q. フェルメールの絵画が小さいのはなぜか。

(条件)

- 教科書P.209 L.2~19を各グループで確認
- 各グループに配布したオランダ独立戦争に関する資料
- ふせんを参照すること
- EX-word機能は使用可
- Web検索は、直後回答が優れるような検索は不可とし、用語などの検索のみ可とする
- (ex)「フェルメール 絵 小さい 理由」
「カルヴァン派」「オランダ東インド会社」
- 解答には「市民」「貿易」の語句を必ず用いること

グループワーク

クラスをグループに分け、情報収集させる。

各グループには、配布したデジタルノート上の資料だけでなく、EX-word 機能や Web 検索なども利用させ、解答までの論理をきちんと補強するよう指示する。

※Web 検索に関しては、即座に理由が発覚するケースを考慮して、グループワークを段階形式で行ったり、「市民」「貿易」の語句をキーワードに設定して内容をまとめさせるなどの工夫を導入したりするとよい。

代表者に配布されたデジタルノートを利用し、グループごとに同時編集機能を用いて取り組ませる。また、各グループが見つけた Web サイトの URL を貼り付けたリンクふせんや EX-word ふせんなどを、デジタルノート上に整理して配置させる。

その際、根拠から解答までが論理的になるよう、スライドショー機能で繋ぐ順番に留意させる。

※Ex-word 機能は有償になります。別途ご購入いただくことでこの機能はご利用いただけます。

step5

【発表】

(注意)

- 各グループの代表者が考察結果発表
- 発表グループ以外のグループは、フィードバックシートに感想やアドバイスなどを記入する

発表

step 4 で作成したデジタルノートをもとに、各グループが考察結果を発表。

発表を聴く側の生徒にはフィードバックシートに感想やアドバイスなどを記入するよう促す。

発表には電子黒板やプロジェクターを利用。

発表後にはいくつかのグループから意見を求め、全体に共有する。

step6

【模範解答】

独立戦争後のオランダでは、商業の発展により市民が力を發揮するようになった。これに伴い、絵画も宗教的あるいは政治的な事柄ではなく、市民の日常生活を描くなど、市民を対象としたものが増え、個人の住居内で楽しむことができるほどの大きさの絵画が好まれるようにならため。

解答例提示・まとめ

各グループの発表と意見交換が済んだら、解答例と関連する重要な内容を確認。加えて、今回の内容のまとめを通じて、「問い合わせの設定 → 情報収集 → 情報分析・考察 → 発表など」といった探究学習の流れを示し、今後の学習内容にどのように応用させることができるのかを明示する。

デジタルノートのURLを回収し、教員が電子黒板やプロジェクターで映しながら簡単な講評や各グループ発表内容の添削、補足事項の解説を行う。

step7

【宿題】

- ・共有してもらったフィードバックシートを参考に、今回の授業で行った考察や発表発表の改善点についてまとめてくる。
- ・良くなかった点を挙げるだけではなく、具体的にどう改善したらよいかを明確にすること

宿題

グループに寄せられたフィードバックシートを読み込み、考察や発表における改善点を記述することを宿題として課す。

生徒に書いてもらったフィードバックシートは、授業支援機能を用いて各グループに送信させる。

step8

【課題】

- ・「課題画像」に示された絵画について、以下の項目の答えを用意してくれるること。
(1) このような絵画は何というか
(2) この絵画にはどのような材料が使われているか
(3) この絵画の特徴はなにか(歴史的背景を踏まえられると、より良い)

参考・補足

歴史と絵画の関わりに関するビザンツ美術(ビザンティン美術)の特徴を調べ、その特徴に対して自ら問い合わせ(なぜその特徴が生まれたのか、など)を設定して情報を収集し、考察するよう促す。問い合わせが設定される特徴としては、

- ・モザイク
- ・フレスコ画
- ・イコン

などが挙げられる。自ら問い合わせの設定が出来ない生徒から助けを求められたら、これらを教員から提示してもよい。

取り組ませる場合は、step4と同様にデジタルノートにまとめさせてURLを回収し、フィードバックするとよい。